

エマージングマーケットウィークリー

国際為替部

マーケット・エコノミスト

佐々木 貴彦

03-3242-7065

takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

齋藤 周

03-3242-7065

amane.saito@mizuho-bk.co.jp

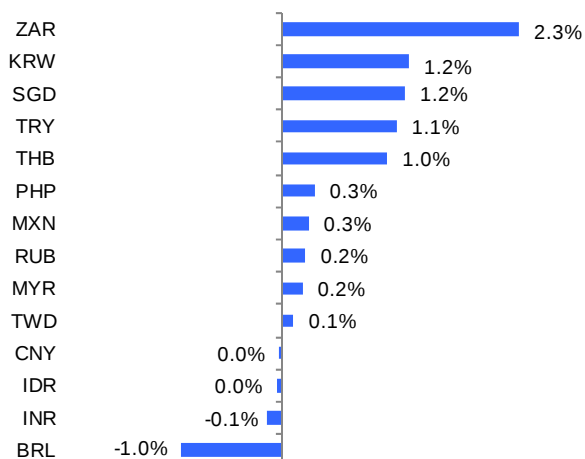
今週のエマージングマーケット

米利上げ期待の後退を受けて、新興国通貨は堅調な値動きが続く

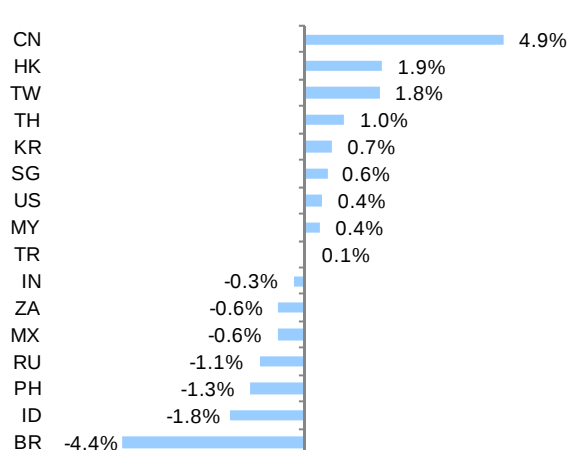
今週の新興国通貨は概ね上昇。年内の米利上げ観測が後退する中、週初は FRB 高官の年内利上げに対して消極的な発言を受けて、ドルが上値重く推移するも新興国通貨はまちまちな動きとなった。13 日に発表された中国 9 月貿易統計は輸入の伸び率が大幅にマイナスとなったことや、原油価格が下落したことが新興国通貨の重石となった。14 日に発表された米 9 月小売売上高、生産者物価指数が市場予想を下回る結果となると、ドル売り圧力が上昇。更に米地区連銀経済報告（ページブック）で米経済成長への慎重な見方、ドル高に対する警戒感が示されたことにより、ドル売りが進む中、新興国通貨は買い戻される展開となった。

個別通貨でみると、大手ビール会社の買収が発表されたことで資金流入期待が高まった ZAR が急伸（+2.3%）。また、一部利下げ観測があったものの、韓国中銀（BOK）が利下げを見送ったことで KRW は上昇（+1.2%）。シンガポール金融管理局（MAS、中央銀行）が政策決定会合にて、SGD 高誘導政策が見直されるとの市場予想を裏切り、SGD 高政策を維持し誘導の傾斜を弱めるに留まったことから SGD も上昇（+1.2 %）。一方、昨年度の財政運営について違憲と連邦会計検査院に判断されるなど政治的混迷が継続し、また米格付け会社から格下げを受けた BRL は軟化（▲1.0%）。

エマージング通貨騰落率(対ドル)



エマージング株式騰落率



(注) US: 米国 S&P500 種指数、CN: 中国上海総合指数、HK: 香港ハンセン指数、IN: インド SENSEX30 種指数、ID: インドネシアジャカルタ総合指数、KR: 韓国総合株価指数、MY: マレーシア FTSE ブルサマレーシア KLCI インデックス、PH: フィリピン総合指数、SG: シンガポール ST 指数、TW: 台湾加権指数、TH: タイ SET 指数、RU: ロシア RTS 指数、ZA: 南アフリカ FTSE/JSE アフリカ全株指数、TR: トルコイスタンブールナショナル 100 種指数、BR: ブラジルボベスバ指数、MX: メキシコボルサ指数

(資料) ブルームバーグ

エマージングマーケット短期見通し

米利上げ期待の後退が引き続き焦点に

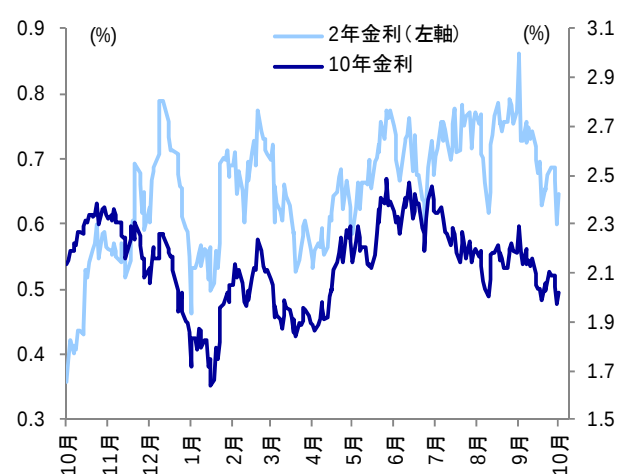
中国経済の低迷よりも米利上げ期待の後退が市場の焦点となった

先週の新興国通貨は、週初に中国の9月輸入が市場予想を大きく下回ったことで売り圧力がかかるも、冴えない米9月小売売上高を受けて買い戻される展開となった。ブレイナード及びタルーロ両FRB理事が年内利上げについて否定的な態度を示し、更に14日に公表されたページブックにおいて景気見通しが若干下方修正された上に、「ドル高が製造業および観光業の支出を抑制した」との文言が記されたことなどを受けて、米年内利上げが一段と後退したことも買い材料となった。

ECBに向けたEUR安・ドル高圧力の影響が懸念されるも大勢は変わらずか

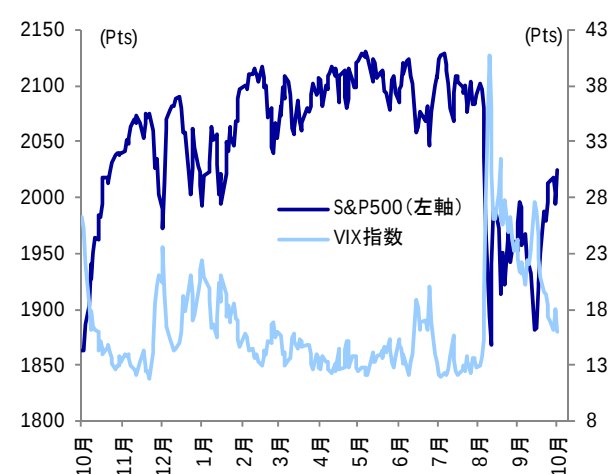
引き続き29日（木）のFOMCに向けて、米利上げ期待の後退が新興国通貨に与える影響は徐々に大きくなっていくだろう。斯かる状況下、今まで売り込まれてきた経常赤字国通貨（IDR、ZARなど）が堅調な値動きを保つと予想する。但し、22日（木）にはECB理事会の開催が予定されており、追加緩和が決定される可能性は否めない。そのため、週初はEUR安圧力の高まりからドルが買い戻され、新興国通貨も再度売り直される可能性がある。しかし、米経済指標の悪化傾向が変わらない以上、EURに引きずられての新興国通貨への売り圧力は限定的となるだろう。来週発表となる米経済指標は、住宅関連指標が主であるものの、市場は過敏になっているため、結果次第では更なるドル安を引き起こす可能性がある。なお、19日（月）に中国7～9月期GDPの発表が予定されているが、既に市場はGDP成長率が4～6月から減速することを見込んでおり、予想外の減少とならない限り市場に大きな影響は与えないと予想する。

図表 1: 米国債利回りの推移(過去1年間)



(資料)ブルームバーグ

図表 2: 米株とVIX指数の推移(過去1年間)



(資料)ブルームバーグ

エマージングマーケット:国別の注目材料

シンガポール: 金融政策決定会合レビュー

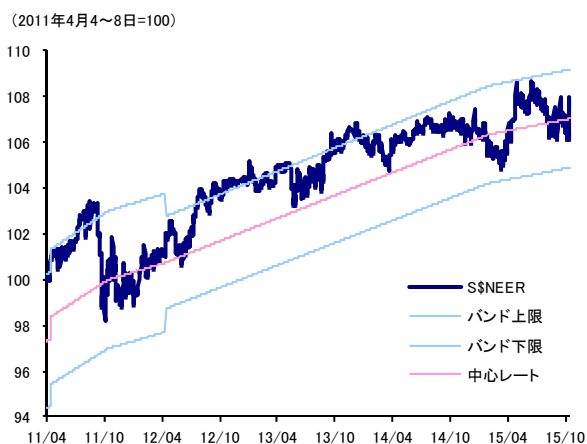
二期連続マイナス成長を回避したことで、当面 MAS は様子見か

14 日(水)、シンガポール金融管理局(MAS、中央銀行)は政策決定会合において SGD 名目実効為替レート(S\$NEER)の変動バンドの幅及び中心値を据え置き、また現行の緩やかな SGD 高誘導スタンス維持、但し誘導ペースは小幅に緩めると発表した。今回の政策決定を巡っては、同日発表の 7~9 月期 GDP が二期連続のマイナス成長となるとの予想から、SGD 高誘導の停止など積極的な緩和策が採用されるとの見方もあったため、発表後は SGD 高方向に推移した。今回、MAS が為替政策を小幅調整に留めたのは、①同日発表された 7~9 月期 GDP がマイナス成長を免れた(結果:前期比年率+0.1%、4~6 月期:同▲2.5%)、②国外要因、特に中国経済の持ち直しを見極めたい意向があった、③物価の目標としているコアインフレ率は 2016 年にかけて上昇に転じると考えている(MAS 予想、2015 年:+0.5%、2016 年:+0.5%~+1.5%)、④過度な SGD 安期待が国内金利の好ましくない上昇をもたらす恐れがある、ことが理由として挙げられる。

特に④については、MAS の悩みの種である。SGD 安政策は確かに輸出産業にメリットがあるものの、一方で SGD 先安懸念から国内 SGD 金利の上昇につながり、ひいては国内貸出を縮小させてしまう諸刃の剣である。実際、シンガポール国内指標金利(SIBOR)は SGD 安を受けて 6 月末 0.82%から 9 月末 1.14%に上昇している。こうしたことから、MAS は当面金融政策の現状維持を続けると考えられる。しかし、輸出の主要相手先である中国経済の更なる低迷など世界経済の悪化が見られれば、今年 1 月のように緊急会合を開いて SGD 高政策の転換を行うだろう。

同日発表された 7~9 月期 GDP は、市場予想(前期比年率▲0.1%)を上回り(同+0.1%)、二期連続のマイナス成長は避けられた。但し前年比でみると

図表 3: シンガポール SGD 名目実効レートとバンド



(資料)ブルームバーグ、シンガポール統計局、みずほ銀行

図表 4: シンガポール 実質 GDP

		2014年	2015年		
		4Q	1Q	2Q	3Q
前期比年率(%)	実質GDP	4.9	3.3	-2.5	0.1
	製造業	-2.5	0.8	-17.4	-3.6
	建設業	2.2	-6.5	12.4	-0.8
	サービス業	7.8	3.5	0.2	0.8
前年比(%)	実質GDP	2.1	2.6	2.0	1.4
	製造業	-1.3	-2.6	-4.9	-6.0
	建設業	0.7	-1.6	2.0	1.6
	サービス業	3.1	4.1	3.6	3.0

(資料)ブルームバーグ、シンガポール統計局、みずほ銀行

+1.4%と2012年9月以来の低い伸びとなった。製造業が引き続き低迷(前期比年率▲3.6%)しており、建設業もマイナス成長に2四半期ぶりに転じる(同▲0.8%)など、悪材料が目立った。5月以降、急激にSGD安が進むものの、製造業の回復にはつながらなかった模様だ。今後も外需の持ち直しが見られない限り、シンガポール経済の低迷は続くと予想する。

トルコ:金融政策決定会合プレビュー

インフレ率が高まるも、11月再総選挙といった要因から今回は現状維持か

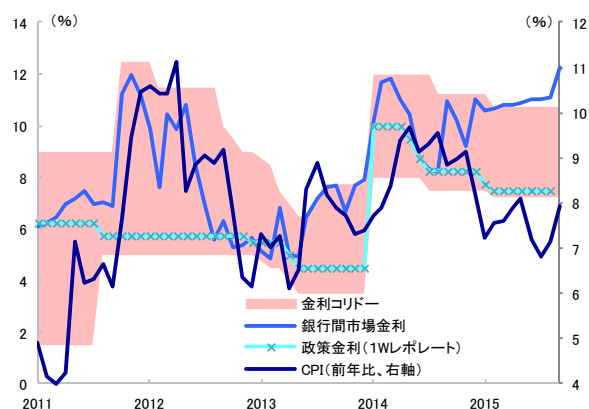
21日(水)のトルコ中銀(CBRT)の金融政策決定会合では、金融政策の現状維持を予想する。国内景気は低空飛行が続くも、前回会合(9月22日)の声明文では、変動が激しいエネルギーや食品価格の動きに注視し、インフレ懸念が十分に後退するまでは慎重な政策スタンスを継続すると述べ、利上げを見送った。会合後の5日に発表された9月消費者物価指数(CPI)は前年比+7.95%と8月同+7.14%から加速し、CBRTのインフレ目標(+5%)からの乖離幅が拡大する結果となった。同結果は、CBRTの利上げ確度を高めると考えられるも、同中銀は既に12月1日までにTRY建の預金準備にかかる金利について150bp引き上げると発表しており、また11月1日に再総選挙も控えていることに鑑みると、今回は現政策を維持すると予想する。

ブラジル:金融政策決定会合プレビュー

インフレ率頭打ちの中でBCBは政策金利を据え置く見込み

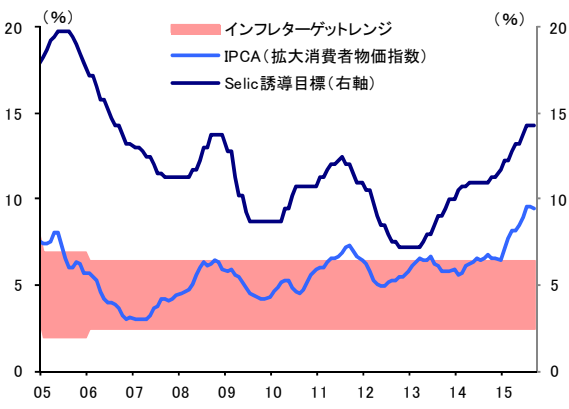
22日(木)のブラジル中銀(BCB)の通貨政策委員会(COPOM)では、政策金利であるSelicレートの据え置きを予想する。前回9月COPOMの声明文では、2016年のインフレ目標(中心地: +4.5%)を達成するためには「この金利水準を十分な期間維持することが必要」と、7月COPOMで付け加えられた文言が繰り返し使用され、8会合ぶりにSelicレートは据え置かれた。BCBは更なる利上げは志向せず、むしろ7月までの7会合連続利上げの効果を見極める態勢に入っていると言えよう。また、9月

図表 5: トルコ 政策金利と消費者物価指数



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 6: ブラジル 政策金利と消費者物価指数



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

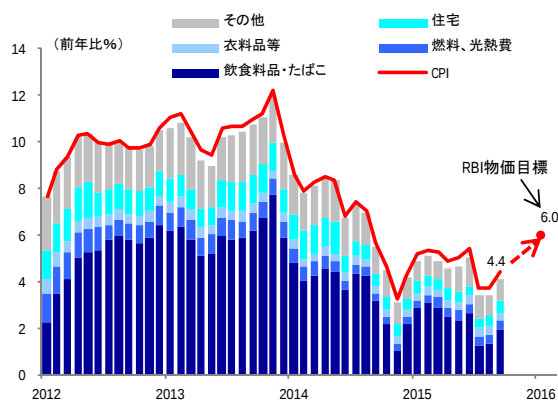
IBGE 拡大消費者物価指数(IPCA)は前年比+9.49%と(8月同+9.53%、7月同+9.56%)から伸び率が頭打ちとなっていることも、BCBが今回COPOMでもSelicレートを据え置く要因になると考える。なお、BRLがブラジルの格付け引き下げ(9月10日)や、国内での政治不信・景気停滞を受けて9月24日に過去最安値を更新したことをうけ、市場ではBRL安防止を目的に10月COPOMにおいてBCBが利上げすると見る向きもある。しかし、トンビニ総裁は10月8日の講演で、「BCBは市場の短期的な変動に過剰反応しない」、「過剰反応は市場のボラティリティを高める」と発言し、「現状の政策金利水準を十分な期間維持することが2016年末にインフレ目標を達成することに必要」という、9月COPOMにおける声明文での主張を繰り返し、足許のBRL動向は政策金利決定に影響しないことを示しており、その可能性は低いと考える。

インド: CPIは食品価格を中心に上昇

食料品価格の上昇が懸念されるも、RBIは当面政策金利を据え置きか

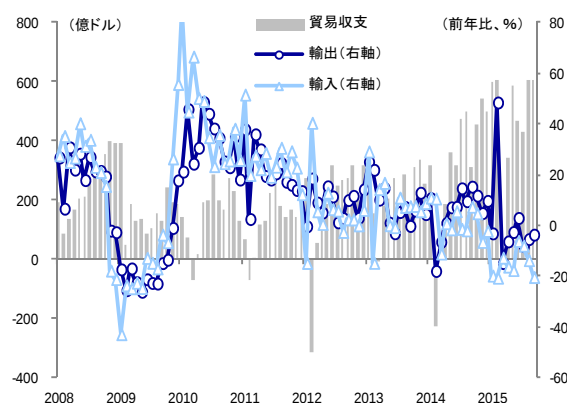
12日に発表されたインド9月消費者物価指数(CPI)はほぼ市場予想通りの前年比+4.41%となり、8月(同+3.74%)から加速した。一方、コアCPI(食料品、燃料、光熱費を除く)は9月前年比+4.64%と8月(同+4.57%)と伸び率はほぼ横ばいとなった。内訳をみると食料品(8月同+2.9%→9月同+4.3%)、豆類(8月同+25.8%→9月同+29.8%)、野菜(8月同▲6.3%→9月同0.0%)などの押し上げが目立った。一方、牛乳(8月同+5.3%→9月同+5.1%)や卵・魚・肉(8月同+5.3%→9月同+5.1%)、燃料光熱費(8月同+5.8%→9月同+5.4%)はやや減速した。CPIの約45%を占める食料品が9月CPI上昇の主因となっており、今後更なる加速が懸念される結果となった。なお、インド準備銀行(RBI)は9月29日に「利下げを前倒し実施する」として政策金利を50bp引き下げており、今回のCPI加速を受けても、当面は政策金利を据え置くと予想される。

図表7: インド 消費者物価指数



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表8: 中国 貿易収支



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

中国：輸入が大幅減も、10～12月期に向けて明るい材料も見られる

輸出の減少幅が縮小する一方で、輸入は大幅減速、但し明るい材料も

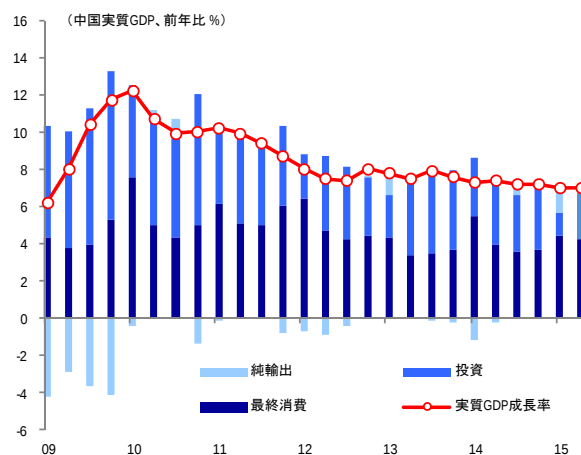
13日（火）に発表された中国9月貿易統計では、輸出の伸び率が前年比▲3.7%（市場予想：同▲6.0%、8月：同▲5.5%）と市場予想及び前月よりも減少幅が縮小した。一方で、輸入の伸び率は、前年比▲20.4%（市場予想：同▲16.0%、8月：同▲13.8%）と市場予想を大きく超える減少幅となった。為替市場では輸入の大幅減を受けて、来週19日（月）に発表される中国7～9月期GDP成長率が市場予想（前年比+6.8%）対比悪化するとの懸念が高まり、CNY売りの展開となった。確かに、経済全体の先行きを示すCaixin（財新）製造業景況感指数（PMI）も9月時点で47.2と2009年以来の低水準に陥っており、7～9月期のGDP成長率が4～6月期（同+7.0%）より低下する可能性は大きい。但し、10～12月期の中国経済を展望する上で、明るい材料が今回の貿易統計で確認できる。輸入の内訳を見ると、原材料の輸入数量が持ち直しの兆しを見せており、例えば鉄鉱石の9月輸入数量増減率は前月比+1.7%と8月（同▲1.0%）から増加、3か月移動平均などトレンドで見ると底打ちの兆しが出始めている。これは輸入額減少の主因が、数量要因から価格要因に移りつつあり、生産量自体は回復し始めていることを示唆している。もう一つ明るい材料を挙げるとすれば、CNY安の影響で輸出金額の減少率は徐々に縮小しており（7月前年比▲8.3%→9月同▲3.7%）、今後も縮小の継続が期待されることである。また同日に発表された9月自動車販売台数は、4か月ぶりにプラス成長（前年比+3.3%）となるなど、消費にも回復の兆しが見え始めており、10～12月期の中国経済が持ち直す確度が高まっていると考えている。

韓国：金融政策決定会合レビュー

BOKは政策金利を維持し、経済の見通しを小幅に下方修正

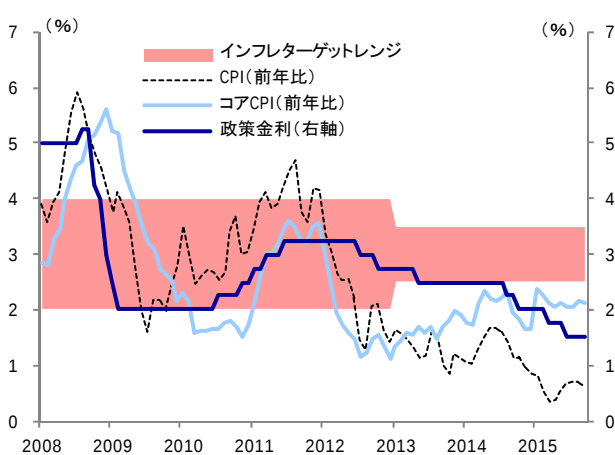
韓国中銀（BOK）は15日の金融通貨委員会にて市場予想通り、全会一致で政策金利を現状の1.5%に据え置くことを決定した。今回で4か月連続

図表9：中国 実質GDP



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表10：韓国 政策金利と消費者物価指数



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

の据え置きとなる。声明文では、前回厳しい表現となった国内経済を取り巻く環境について、「高まっている」から前々会合と同様、「高い」状態となっていると警戒感を下げるような表記となった。このほか、国内消費や労働市況の改善についても、やや前向きな表現に変更された。前回会合後に発表された韓国経済指標では、生産の回復や輸出のマイナス幅の縮小など、明るい兆しが見られており、BOKはこうした基調が今後も続くと判断した模様だ。今回の会合結果を受けて BOK が年内に利下げを実行する可能性は低くなったものの、依然として中国をはじめとする世界経済の回復は不透明であることから年内利下げの可能性は残っている。なお、会合後の会見で、李 BOK 総裁は 2015 年の成長率見通しを前年比+2.8%から同+2.7 %に、2016 年は同+3.3%から同+3.2%へと小幅に下方修正することを発表した。2015 年の 4～6 月期は中東呼吸器症候群（MERS）の影響により消費が低迷したため、想定より成長率が低かったことが背景にあるとした。2016 年については、国内要因よりも国外要因が大きなリスクになるとしている。

エマージング経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
10月9日 (金)	フィリピン	8月 輸出(前年比)	-2.9%	-6.3%	-1.8%	--
12日 (月)	マレーシア	8月 鉱工業生産(前年比)	4.1%	3.0%	6.1%	--
12日 (月)	インド	8月 鉱工業生産(前年比)	4.8%	6.4%	4.2%	4.1%
12日 (月)	インド	8月 消費者物価指数(前年比)	4.4%	4.4%	3.7%	3.7%
13日 (火)	中国	9月 貿易収支	\$48.21B	\$60.34B	\$60.24B	--
13日 (火)	中国	9月 輸出(前年比)	-6.0%	-3.7%	-5.5%	--
14日 (水)	シンガポール	3Q GDP(前年比)	1.3%	1.4%	1.8%	2.0%
14日 (水)	中国	9月 消費者物価指数(前年比)	1.8%	1.6%	2.0%	--
14日 (水)	インド	9月 卸売物価(前年比)	-4.4%	-4.5%	-5.0%	--
15日 (木)	インドネシア	9月 貿易収支	\$400M	\$1020M	\$434M	--
15日 (木)	シンガポール	8月 小売売上高(除自動車/前年比)	1.6%	6.1%	5.2%	--
15日 (木)	韓国	10月 韓国銀行7日間レートの	1.5%	1.5%	1.5%	--
15日 (木)	フィリピン	8月 海外送金(前年比)	2.4%	-0.6%	0.5%	--
15日 (木)	インドネシア	10月 インドネシア銀行レファレンス・レート	7.5%	7.5%	7.5%	--
15~16日	中国	9月 新規貸出(人民元)	900.0B	1050.0B	809.6B	--
15~16日	中国	9月 マネーサプライM2(前年比)	13.1%	13.1%	13.3%	--
10月16日 (金)	シンガポール	9月 非石油地場輸出(前年比)	-3.9%	--	-8.4%	--
16日 (金)	マレーシア	9月 消費者物価指数	2.9%	--	3.1%	--
19日 (月)	中国	9月 小売売上高(前年比)	10.8%	--	10.8%	--
19日 (月)	中国	9月 鉱工業生産(前年比)	6.0%	--	6.1%	--
19日 (月)	中国	9月 固定資産投資(年初来/前年比)	10.8%	--	10.9%	--
19日 (月)	中国	3Q GDP(前年比)	6.8%	--	7.0%	--
19日 (月)	フィリピン	9月 総合国際収支	--	--	-\$450M	--
23日 (金)	韓国	3Q GDP(前年比)	--	--	2.2%	--
23日 (金)	シンガポール	9月 消費者物価指数	--	--	-0.8%	--
中東欧・アフリカ						
10月9日 (金)	ロシア	3Q 経常収支	8.95B	5.40B	15.82B	--
12日 (月)	ロシア	8月 貿易収支	10.4B	8.7B	10.7B	--
14日 (水)	トルコ	8月 経常収支	--	-0.16B	-3.15B	--
15~20日	ロシア	9月 鉱工業生産(前年比)	-4.8%	--	-4.3%	--
10月19日 (月)	ロシア	9月 実質小売売上高(前年比)	-9.1%	--	-9.1%	--
21日 (水)	南アフリカ	9月 消費者物価指数(前年比)	--	--	4.6%	--
21日 (水)	南アフリカ	8月 小売売上高(実質値、前年比)	--	--	3.3%	--
22日 (木)	トルコ	10月 指標レートの	--	--	7.5%	--
22日 (木)	トルコ	10月 翌日物貸出金利	--	--	10.8%	--
22日 (木)	トルコ	10月 翌日物借入金利	--	--	7.3%	--
22日 (木)	トルコ	10月 消費者信頼感指数	--	--	58.5	--
ラテンアメリカ						
10月14日 (水)	ブラジル	8月 広義小売売上高(前月比)	-1.5%	-2.0%	0.6%	0.5%
15~20日	ブラジル	8月 経済活動(前年比)	-4.2%	--	-4.3%	--
10月21日 (水)	ブラジル	10月 IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	--	--	9.6%	--
21日 (水)	メキシコ	8月 小売売上高(前年比)	--	--	5.8%	--
21~22日	ブラジル	10月 SELICレートの	14.3%	--	14.3%	--
10月23日 (金)	ブラジル	9月 経常収支	--	--	-\$2487M	--

(注)2015年10月16日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
(資料)ブルームバーグ

エマージング通貨相場見通し

		2015年 1～9月(実績)	SPOT	12月	2016年 3月	6月	9月	12月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.1818 ～ 6.4489	6.3463	6.45	6.40	6.36	6.30	6.28
香港ドル	(HKD)	7.7496 ～ 7.7744	7.7500	7.76	7.76	7.76	7.76	7.76
インドルピー	(INR)	61.295 ～ 66.890	64.825	68.0	66.5	65.0	63.0	62.5
インドネシアルピア	(IDR)	12378 ～ 14828	13418	15000	14800	14500	14000	13600
韓国ウォン	(KRW)	1065.21 ～ 1208.72	1130.30	1220	1200	1170	1140	1110
マレーシアリング	(MYR)	3.4960 ～ 4.4812	4.1213	4.40	4.25	4.15	4.02	3.92
フィリピンペソ	(PHP)	43.950 ～ 47.059	45.730	47.8	47.5	46.7	46.0	45.6
シンガポールドル	(SGD)	1.3151 ～ 1.4335	1.3805	1.43	1.39	1.36	1.33	1.32
台湾ドル	(TWD)	30.354 ～ 33.329	32.278	33.20	33.00	32.70	32.20	32.00
タイバーツ	(THB)	32.29 ～ 36.51	35.20	37.0	36.5	35.5	34.7	34.3
ベトナムドン	(VND)	21256 ～ 22547	22340	22550	23000	23000	23000	23000
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	48.1365 ～ 71.8030	61.4075	70.00	68.00	65.00	60.00	60.00
南アフリカランド	(ZAR)	11.2575 ～ 14.1588	13.0536	14.00	13.50	13.00	13.00	13.00
トルコリラ	(TRY)	2.2727 ～ 3.0752	2.8820	3.30	3.40	3.50	3.50	3.50
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	2.5493 ～ 4.2478	3.7994	4.05	4.30	4.36	4.28	4.20
メキシコペソ	(MXN)	14.4357 ～ 17.3425	16.3858	17.30	17.00	16.90	16.60	16.40
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	18.210 ～ 20.285	18.759	18.91	18.91	18.87	18.73	18.47
香港ドル	(HKD)	14.946 ～ 16.233	15.361	15.72	15.59	15.46	15.21	14.95
インドルピー	(INR)	1.747 ～ 1.971	1.837	1.79	1.82	1.85	1.87	1.86
インドネシアルピア	(100IDR)	0.806 ～ 0.969	0.887	0.813	0.818	0.828	0.843	0.853
韓国ウォン	(100KRW)	9.688 ～ 11.266	10.597	10.00	10.08	10.26	10.35	10.45
マレーシアリング	(MYR)	26.646 ～ 34.334	28.725	27.73	28.47	28.92	29.35	29.59
フィリピンペソ	(PHP)	2.521 ～ 2.800	2.588	2.55	2.55	2.57	2.57	2.54
シンガポールドル	(SGD)	82.40 ～ 92.89	86.24	85.31	87.05	88.24	88.72	87.88
台湾ドル	(TWD)	3.551 ～ 4.078	3.688	3.67	3.67	3.67	3.66	3.63
タイバーツ	(THB)	3.267 ～ 3.737	3.382	3.30	3.32	3.38	3.40	3.38
ベトナムドン	(100VND)	0.5178 ～ 0.5768	0.5329	0.54	0.53	0.52	0.51	0.50
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.644 ～ 2.652	1.941	1.74	1.78	1.85	1.97	1.93
南アフリカランド	(ZAR)	8.431 ～ 10.453	9.121	8.71	8.96	9.23	9.08	8.92
トルコリラ	(TRY)	38.853 ～ 52.258	41.294	36.97	35.59	34.29	33.71	33.14
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	28.163 ～ 46.148	31.327	30.12	28.14	27.52	27.57	27.62
メキシコペソ	(MXN)	6.764 ～ 8.199	7.266	7.05	7.12	7.10	7.11	7.07

(注)1. 実績の欄は9月30日まで。SPOTは10月16日の8時50分頃。2. 実績値はブルームバーグの値。3. 予想の欄は四半期末の予想。
(資料)みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。